

くらし・福祉を
ささえるまちへ
子育て応援します



*議員団控室 TEL740-1111

*日本共産党川西市委員会

川西市平野2-1-3

TEL792-2164

北野のり子の活動をお知らせ
しています。

6月
議会

川西市病院事業に指定管理者制度を 導入するための条例



*問題ありの指定管理者制度

市は、(仮称)「川西市立総合医療センター」構想(案)を指定管理者制度導入を進めるため、6月議会に川西市病院事業に指定管理者制度を導入するための条例改正及び(仮称)川西市立総合医療センター構想等策定・指定管理者選定支援業務の委託料3千万円の補正予算(平成29年度1千200万円・平成30年度1千800万円)を提出しました。

これらの議案に対し反対したのは、5人のみ(日本共産党議員団:住田・黒田・北野・自治市民クラブ:北上議員・無所属:吉富議員)結果、賛成多数で可決。

今年10月、指定管理者を募集開始、来年1月決定、平成31年度から市立川西病院で運営開始。平成33年度から20年間、新設する総合医療センターの指定管理を行う予定。

私は、指定管理者制度により、病院の管理・運営業務を民間に委ねるため、自治体の責任が縮小され病院の公的な役割低下や住民参加、議会のチェック、自治体として福祉、医療一体のまちづくりなどが困難になる恐れがあると懸念しています。また、指定管理者に移行すればそこで働く職員は、いったん退職、分限解雇になります。市は、病院職員の理解を得るため個別に丁寧な説明、意向を確認すると述べています。しかし、全国事例によると医療従事者の退職が止まらず、病棟の縮小・医療機能の低下につながり、指定期間の途中で撤退が生じています。経営状況優先の指定管理者制度は、自治体病院には馴染まず地域医療を崩壊させる事態になりかねません。

*北部地域で公立病院として存続 予定通り経営健全化計画を進めるべき

市は、これまで市立川西病院は、公立病院として北部での整備を基本に検討すると説明してきました。ところが職員や議会、市民に知らせるより先に構想が新聞報道されその後、説明という市の進め方は、問題があり納得できません。

今回の計画では、北部地域の二次救急がなくなると同時に急性期病床が大幅に減ります。そのうえ、新病院整備費総額176億円は、(利子を含めると227億円)100%借金。何かあれば市の責任です。結果、市民の税金が使われることになり、市全体にしわ寄せがくることにもなりかねません。今計画は白紙撤回し、元の計画に戻して自治体病院として、安全・安心の医療、住民の命と健康を守る役割を果たせるよう、市民の意見をしっかりと聞くべきではないでしょうか。

お知らせ.....

議会では、市立病院整備調査特別委員会が設置され、8月3日、「市立川西病院の改革について」議論が行われました。そこで市民説明会の日程が明らかになりました。

市民説明会は、以下の通り開催する予定です
(9月号の広報誌に掲載)

9月23日(土・祝)

* 9:30~11:30 みつなかホール
文化サロン

* 15:00~17:00 東谷小学校体育館



緑保育所、松風幼稚園廃園へ

市立牧の台幼稚園と市立緑保育所を統合し、新たに市立牧の台みどりこども園を設置するための条例及び平成30年度をもって、市立松風幼稚園を廃止するための条例が賛成多数で可決しました。反対の立場をとったのは、残念ながら日本共産党議員団(住田・黒田・北野)のみ。

*緑保育所、松風幼稚園を残してほしい 保護者の思いは聞き入れず

市は、財政が厳しいと言いつつ、耐震性がある牧の台幼稚園を解体し、6億7500万円で「川西市立牧の台みどりこども園」を建設し、畦野駅直ぐ近くにある緑保育所を、立地の良さもあり、今年度も定員いっぱいにもかかわらず廃園することを決めていきます。

松風幼稚園についても「地域から公立幼稚園をなくさないでほしい。」と

存続を求める署名が(8885筆)提出されていましたが、31年度、廃止することに。

厚生労働省が4月、「待機児童解消に向けて緊急的に対応する施策について」の方針を川西市に対しても求めています。

市の待機児童は7月現在で78人と保育所定員が足りません。松風幼稚園廃園を中止し、保護者や地域住民の声をしっかり聞き、空き教室を活かす等、まちづくりの観点での施策を考えるべきです。

視察報告

デンマーク・風のがっこう研修ツアー 報告:その②



4月17日~25日



教科書にはお金を使わない、使い終われば返すのでペーパーレスにも貢献。学校は無償で自己負担はありません。18歳以上の学生には、国から生活費が支給され、手厚い支援が保証されています。

4月19日、ヘアニング市にあるウアンホイ小学校を訪ねました。全校生徒101人。ゼロ学年から6年生の子どもたち、先生8人と用務員。一クラス15人の小規模校。グループになって先生と子どもたちが一緒に課題に向き合い考える教育に力を入れています。因みにスカイプ電話を開発したのもデンマーク人だそうです。



〇キセラ川西せせらぎ公園視察

6月22日、まちづくり調査特別委員会が行われました。キセラ川西整備事業の進捗状況について議論が交わされ、その後「キセラ川西せせらぎ公園」を視察しました。

委員会で公園やせせらぎ遊歩道の植栽等維持管理費用について増額することが明らかになりました。

総額5010万円（維持管理期間6年）が4485万円増額し、9495万円になります。

植栽数増加（3.3倍）、人力除草の追加、清掃及び散水作業量の増加が主な要因です。

これらの事業は、PFI事業で行われており12月議会に金額増に伴う契約変更議案として提出されます。

植栽維持管理等、4485万円増額!



失敗しても何度もやり直しができるのも日本と大きな違いの一つです。この学校では、不登校もなく、子どもたちがイキイキと学校生活を楽しむ様子が見られました。日本は、教育費にお金を出さない国です。学生の多くが卒業後、借りた奨学金返済に苦しんでいます。来年からスタートする給付奨学金の対象者はわずか2万人・2%。せめて学生の半分（70万人分）まで増やし、お金の心配なく進学ができ、将来に夢や希望が持てる社会にするべきだと改めて実感しました。次号につづく...

〇福祉医療費助成制度 7月1日～拡充しています。

県下の福祉医療費助成制度、川西市も含め7市町が拡充しました。

入院・通院とも中学校まで無料は、41市町のうち35市町（85%）まで拡がっています。

さらに高校生まで助成する自治体が6市町。（小野市、赤穂市、洲本市、高砂市、朝来市、香美町）

残念ながら川西市は昨年度、申請が通るものの、乳幼児医療助成は、未就学児までの所得制限撤廃となりましたが、こどもの医療費助成については、小4～中3までの通院費自己負担割合が2割から1割に引き下げに留まっています。

今年度から老人医療費助成制度が廃止され、川西市も7月1日から廃止しました。

宝塚市、西宮市、高砂市、加藤市、相生市、新温泉町が独自制度を設けています。

医療費助成制度一つとっても住んでいるところにより違いがあります。

子どもから高齢者まで安心して暮らせるよう、引き続き取り組みを進めます。



- 9月議日程
- 8月28日(月) 開会
 - 9月4日(月)～6日(水) 一般質問
 - ※一般質問は、9:30スタート
 - 7日(木) 総務生活常任委員会
 - 8日(金) 厚生常任委員会
 - 11日(月) 建設文教公企常任委員会
 - 12日(火) 公営企業会計決算審査
 - 13日(水) 議会運営委員会
 - 15日(金) 継続日
 - 25日(月) 最終日
 - 10月2日(月)～4日(水) 一般会計決算審査
 - 5日(木)～6日(金) 特別会計決算審査
 - 19日(木) 議会運営委員会
 - 26日(木) 臨時会 開会
 - 27日(金) 最終日
 - ※一般質問以外は、10:00よりスタートです。

ぜひ、傍聴にお越しください。